



2023年 4月16日  
第184号

# JR 東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実

編集情宣担当

ホームページ

<http://www.ireu-yokohama1.jp/>



## イーハトーブ

4月15日号

今年になつて電気代が昨年より大幅に増えて家計を圧迫している。政府やメディアはロシアのウクライナ侵攻により、燃料費の高騰を理由にあげているが、本当にそうなのであるか。東アフリカのケニアでは急速に電化が進んでいる。その電源は再生可能エネルギーの太陽光発電や地熱発電である。大規模な火力発電所・原子力発電所はなく、小規模な発電方法により低いコストで各家庭の事情にあった発電をしている。また「アフリカ大地溝帯」では地熱発電に期待がかかっている。その地溝帯では地下水が熱せられ水蒸気となりタービンを回し発電する方法である。日本も全国各地に温泉が有り地熱発電に適していると思うが、温泉地では工事によって温泉が出なくなるなど課題が多く、地元自治体からは反対されるだろう。政府はどうしても原発を再稼働させたいらしい。何か他に目的があるのだろうか。福島原発の事故をどう思っているのだろうか。汚染水の海洋放出問題など未だ収束のめども立っていない中、関西電力は高浜原発4号機の運転再開を決めた。ましてや核のゴミの処分場も決まっていけないのである。日本は自然豊かな国である。ケニアをはじめ世界に対し、環境にやさしい水力発電・風力発電・太陽光発電などのクリーンな再生エネルギーの活用をなぜ進めようとなないのか。疑問に思うのは私だけだろうか。(S・N)

イーハトーブとは

「注文の多い料理店」や「雨エモマケズ」などの著者として有名な宮沢賢治による造語です。故郷の岩手県をモチーフとし、彼の心の中にある理想郷を示す言葉です。

社会に目を向け、新しいものを積極的に取り入れ、農民の生活向上のために最後まで尽力した宮沢賢治の生き方に学びながら私たちが外に目を向け、私たちが安心して働き暮らせる理想郷を実現していこうという想いを込め、イーハトーブというタイトルで情報発信を行っていきます。